

地域包括ケア推進サポーターの 知識や技術向上を目指した講座開催

高齢や認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに取り組む、地域包括ケア推進サポーターのフォローアップ講座が11月29日に開催されました。萩元博子さんを講師に迎えた講座に約44人のサポーターが参加。曲に合わせた体操や体全体を使って行うじゃんけんなどを体験し、通いの場などで実践できる技術を学びました。



地域包括ケア推進サポーターは、認知症支援の普及活動や、通いの場での介護予防の運動、高齢者の自宅に訪問し、傾聴を行う活動などに取り組んでいます

冬の風物詩「こばやし冬まつり」を開催

11月23日、小林駅南公園を会場に「こばやし冬まつり2024」が開催されました。今年で24回目の開催で、来場者は鮮やかなイルミネーションの写真を撮ったり、キッチンカーやステージイベントを楽しんでいました。イルミネーションは1月17日まで点灯予定です。



食育教室で日本料理について学ぶ

11月29日、永久津小で6年生を対象にした食育教室が開かれました。講師を務めたのは同校出身で市内で日本料理店を営む大山広行さんと、妻りんさん。児童は日本料理や日本の伝統・文化について学んだ後、だし巻き作りや弁当の盛り付けに挑戦しました。



円滑なボランティア受け入れを目指す 社協が災害 V C 運営訓練を実施

11月22日、市社会福祉協議会主催の災害ボランティアセンター運営訓練が行われました。訓練には同協議会と市SVCセンター、小林青年会議所、トヨタレンタリース宮崎などから約20人が参加。災害ボランティアセンターの仕組みを学ぶ講義のほか、実際のセンター運営の流れを学ぶ演習などを行い、災害発生時の動きを確認しました。



社会福祉協議会は、災害発生時、被災状況に応じ市が設置した災害ボランティアセンターを運営。ボランティア受け入れや支援活動の調整などの役割を担います

永久津小学校が創立150周年 児童や地域住民が節目を祝う

11月24日、永久津小学校の創立150周年式典が開かれました。オープニングセレモニーでは同校児童の合唱などが披露されたほか、式典第1部では学校の歩みをたどる記念ムービーを上映。参加者は150年の歴史を振り返りながら、地域の絆を再確認しました。同校は明治7年(1874年)の創立で、5千人以上の卒業生を輩出しています。



式典第2部では、地元保存会と6年生児童が地域の郷土芸能「めしげ踊り」を披露。同校の学校区内を拠点に活動する深奏太鼓の演奏もありました

社会福祉の発展・振興に尽力した 個人・団体が県知事表彰など受賞



11月12日、宮崎観光ホテルで宮崎県社会福祉大会が開催されました。大会では、長年にわたり社会福祉の発展・振興に寄与したとして宮崎県知事表彰、宮崎県社会福祉協議会会長表彰・感謝、宮崎県共同募金会会長表彰・感謝の顕彰が行われ、小林市内から個人29人と5団体が受賞しました。

【受賞者・受賞団体(敬称略)】

■県知事表彰(社会福祉功労) 種子田信義、神之蘭司、鎌宮玲子、山口みつよ、山田英一、井上圭子、佐藤宗一、山之口則子、相場アツ子、長野いち子、古川昭子、川添紘一、堀之内和利、中山敏章

■県知事表彰(社会福祉事業功労) 中園真寿美、温水美佐枝、村川八重子、窪田由香、原田孝貴

■県社会福祉協議会会長表彰(民生委員) 川野律子、四位達生、時吉捷二、酒井絹子、國武繁子、有島紘子、加藤憂子、(団体職員) 山下梨詠

■県共同募金会会長表彰(優良地区) 坂元区、西町三区、野尻五区、下九々瀬区、上九々瀬区、(篤志寄付感謝) 関谷恵子、松本ルリ子

農業の魅力伝える農業フォーラム開催

10月23日と11月26日、JAこばやし青年部野尻支部が秀峰高生と野尻中生を対象に農業フォーラムを開催しました。子どもたちに農業への理解を深めてもらいたいと同支部が企画。地域の農畜産業を紹介する講演などを通して農業の魅力を伝えました。



(株)加藤牧場と(有)ダイワファーム 全国のチーズコンテストで高い評価

11月20日、(株)加藤牧場(加藤教昭代表)と(有)ダイワファーム(大窪和利代表)が10月に行われた「Japan Cheese Awards 2024」の結果を市長に報告しました。加藤代表が出品したカマンベールチーズが「ソフト/白カビ部門」で金賞と最優秀部門賞を、大窪代表が出品したロビダイワが「ソフト/ウォッシュ部門」で金賞を受賞しました。



加藤代表は「小林のおいしい水のおかげで良いチーズが作れる」、大窪代表は「受賞はうれしい。もっと宮崎でチーズ文化が広がってほしい」と話しました

豊かな地域社会づくりに貢献 明治安田生命保険相互会社が寄付

11月20日、明治安田生命保険相互会社が市に約82万円を寄付しました。同社が豊かな地域社会づくりに貢献しようと展開する「私の地元応援募金」として令和2年度から毎年寄付いただいております。寄付金は、同社の意向に基づき地域住民の健康増進や介護・認知症予防、子育て支援などの施策の充実に活用されます。



同社とは、令和2年度に「健康増進に関する連携協定」も締結。イベント会場で健康測定会を実施するなど、市民の健康増進に貢献いただいています

障害の有無に関係なく共に学ぶ インクルーシブな学校運営を目指す

12月9日、小林こすもす支援学校と小林高、東方小、東方中の代表者らが集まる「学校運営連携協議会」が開かれました。小学部と中学部、高等部がある同支援学校と3校は併設されており、日頃からスポーツや音楽などで交流。障害の有無に関わらず、児童生徒が交流と共同学習ができる環境づくりのための課題共有などが行われました。



こすもす支援学校の森永英津子校長は「4校が集まり、共生社会実現に向けた想いや課題の共有ができた。同じ方向を向いて活動を続けたい」と話しました

ライオンズクラブが環境美化用品を寄贈

12月6日、小林ライオンズクラブ（川野雄司会長）が市内全小・中学校に環境美化用品を寄贈しました。昭和53年から続く同クラブの青少年育成事業の一貫で行われているもの。川野会長は「清潔な環境で生活することは心身ともに健康につながる」と話しました。



地域と交流深めるシン・小林小まつり

12月7日、シン・小林小まつりが開催されました。午前中は小林小まちづくり協議会と連携し、地域の名人たちを講師に迎えてグラウンドゴルフやごみ拾いなどを実施。午後はPTA主催の飲食の販売やスポーツ少年団の紹介などが行われ、会場は盛り上がりしました。



長年地域の人権意識醸成に尽力 榎光子さん藍綬褒章を受賞

12月6日、秋の褒章で藍綬褒章を受章した榎光子さんの受章祝賀会が開催されました。榎さんは、平成17年から人権擁護委員として市民の人権相談や人権啓発活動に尽力。子ども向けの人権教室では「自分がされて嫌なことは人にはしない」と分かりやすく伝えることを心がけるなど、人が生きる権利を守る大切さを広く伝えてきました。



榎さんは「受章は私個人ではなく、市全体でいただいたものと感じている。改めて、足元をしっかりと見た活動をしていきたい」と話しました

西小林中が駅伝ロードレース大会開催 高校生から走るコツや楽しさ教わる

12月6日、西小林中の駅伝ロードレース大会が市総合運動公園でありました。今年は、全国高校駅伝大会出場を決めた小林高校の男女駅伝部も参加。生徒たちは、ウォーミングアップの際に高校生から走り方のコツや呼吸法などを教わったほか、駅伝やロードレースでは伴走する高校生から励まされながら精一杯会場を駆け抜けました。



憧れの高校生と一緒に走ることで走る楽しさを実感して欲しいと西小林中学生会が企画し、同部の参加が実現。大会後は全国大会出場の激励会も開催されました

消防車両で医師らを現場へ運ぶ 西諸広域と市立病院が協定を締結

12月4日、西諸広域行政事務組合と小林市立病院が救急現場への医師の出動に関する協定を締結しました。傷病者に生命の危険が切迫するなどしている場合、病院側へ医師や看護師の出動を要請。同組合消防本部の消防車両に医師らを乗せ、現場に向かうなどするもの。早期に適切な医療行為を行うことで救命率の向上などが期待されます。



県のドクターヘリを要請できない悪天候時や山間部などへの出動を想定しており、運用は原則、平日の9時～17時で12月16日から開始予定です

小林看護医療専門学校の学生2人 九州大会（テニス競技）で飛躍

11月14日と15日に宮崎市で開催された「第43回九州ブロック専門学校体育大会」に出場した小林看護医療専門学校の安藤星哉さん（1年）と上野楓さん（2年）が、12月4日に結果報告のため市長を訪問しました。安藤さんは県連合チームとして団体戦で優勝し、個人戦でも準優勝。上野さんは個人戦で3位と好成績を取めました。



安藤さんは「初の九州大会。周囲の応援が力になり結果を残せた」、上野さんは「昨年は悔しい思いをした。今回は結果を残せてうれしい」と笑顔で報告

地域防災の要となる人材を育成 33人を市民防災リーダーに認定

11月30日、市民防災リーダー養成講習会が中央公民館で開かれました。講習会は、地域の防災対策のリーダーとなる人材を育成するもので、地域住民など33人が参加。参加者は、防災の基礎知識や昨年1月に発生した能登半島地震での事例などについて学んだほか、心肺蘇生法やAEDの使用方法、ロープワークなどの実技も学びました。



災害ボランティアコーディネーターの講師からロープワークを学びました。参加者は防災に関する幅広い知識や実技を学びました

恩師や保護者に成長した姿見せる 小林西高調理科の学習成果発表会

12月4日、小林西高調理科3年生の学習成果発表会と試食会が開催されました。卒業を前に生徒たちの成長を披露する場として開かれているもので、8班に分かれた生徒25人は、3年間で学んだ日本料理や西洋料理、中華料理などを基に考えた34品の料理を用意。保護者など約70人が生徒たちの集大成となる料理に舌鼓を打ちました。



豊原巴南さんは「入学当初は包丁を持つことすら怖いと思ったことも。実習を通して成長した姿を見せられるよう自信のある品を作った」と話しました